

☆2021年がスタートしました。

新年明けましておめでとうございます。いよいよ令和3年がスタートしました。今年も甘楽中学校の取組に対しまして温かなご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

3学期始業式の校長講話(一部抜粋)



佐藤一斎(さとういっさい)

感奮興起(かんふんこうき)

感奮興起:何かを感じ、自分もうかうかしておれないと奮(ふる)い立つ。という意味です。

人間の成長、人生の発展に不可欠の資質、要素だと多くの先達(せんだつ:ほかの人より先にその分野に進み、業績・経験を積んで他を導くこと。また、その人)がその大事さを説いています。佐藤一斎(江戸時代:美濃国岩村藩)は「言志四録(げんししらく)」に言っています。

『憤(ふん:発憤すること、なにくそ、負けてたまるかという気持ちを持つこと)の一字、これ進学の機関なり。“舜何人ぞや。予何人ぞや。”とは、方(まさ)に是れ憤なり』と。憤の一字とは、感奮興起と同義です。憤こそが学問を進歩させ、人間を向上させる機関だと一斎は言い切ります。

“舜何人ぞや(しゅん なん ひとぞや)。予何人ぞや(われ なんびとぞや)。まさにこれ憤なり”は孔子の一番弟子、顔回(がんかい)の言葉。舜という人は堯と並び称せられる支那古代の聖人。その舜も人、自分も人、努力修養すれば自分も必ず舜のような人物になれる、と顔回は感奮したのです。

偉業を成し遂げた歴史上の人物、それに感化されて自分にも出来ない事はないと、発憤する時のこの憤の一字は、学問を通して修養の道を進むための最も必要な列車でいえば機関車のようなものです。「舜」すなわち中国の神話の中の帝王も、自分と同じ人間ではないか。自分だって舜のような人物になってやる、これが憤ということです。

※佐藤一斎:山田方谷、佐久間象山らの師であり、吉田松陰や勝海舟にも多大な影響を与えた幕末の儒者・佐藤一斎。33歳にして昌平坂学問所の塾頭に抜擢された。一斎が、42歳から82歳にかけてまとめ上げたのが、名語録「言志四録」です。

※堯 舜(ぎょう しゅん):中国古代の伝説上の帝王、堯と舜。徳をもって理想的な仁政(じんせい:恵み深い、思いやりのある政治)を行ったことで、後世の帝王の模範とされました。

※顔回(がんかい):孔子の弟子の中でも最も孔子から信頼されていた人。31歳の若さで亡くなります。顔回の死を知った孔子は、“天 吾をほろぼせり”とその悲しみに暮れます。

はるか2000年以上前に「論語」で、孔子は弟子たちにこうも言います。

『之(これ)を如何(いかん)せん。之を如何せんと言わざる者は、吾(われ)之を如何ともするなきのみ』

どうしたら自分をもっと向上させることができるか、いかにしたら自分をもっと磨くことができるか。真剣に問い、求めようとしない者は、この自分(孔子)もどうすることもできない。…感奮興起のいかんで決まるということなのではないでしょうか。…

東井義男先生の「心のスイッチ」という詩に次のような部分があります。

人間の目は ふしぎな 目 見ようという心がなかったら 見ているも見えない
人間の耳は ふしぎな 耳 聞こうという心がなかったら 聞いているも聞こえない
頭も そうだ はじめからよい頭 わるい頭の区別があるのではないようだ
「よし やるぞ!」と 心のスイッチが入ると 頭もすばらしいはたらきをしはじめる
心のスイッチが 人間を つまらなくもし すばらしくもしていく

…新しい年、君たちも憤の一字、自分の心のスイッチについて考えてみてください…

☆校内書き初め大会 (1 / 7)

3学期の始業式のあと、全校で書き初め大会を行いました。新年の希望に満ちた心で学年ごとの課題に挑戦しました。今年がよい1年でありますようにという願いが書き初めに託されました。

1年生「新たな挑戦」

2年生「夢を信じる」

3年生「友好の精神」



引き続き感染症予防です！！

本日の始業式で生徒たちの元気な顔を見ることができて、本当に安堵しています。冬休み中の家庭での健康管理がしっかりしていたからだと思います。ありがとうございました。しかし、まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大防止については気を緩められません。インフルエンザについても同様です。

- ・自宅を出る前の検温の徹底 (熱がある場合、かぜ症状がある場合は家で休む)
- ・学校内での手洗いの徹底 等

本日配布の「ひだまりNO. 14 (甘楽中ほけんだより)」を十分に読んでください。生徒または家族で体調不良の場合、不安がある場合は、学校へ連絡をお願いします。